

【5月の気象】

この時期は季節の変わり目で、天気が変わりやすく、気温も大きく変化します。晴天が続き、空気の乾燥や少雨で農作物に被害が発生したり、低気圧が発達しながら日本海を通過して、広い範囲で天気が急激に変わり、荒れた天気となることもあります。

上空に冷たい空気が入ると大気の状態が不安定となり、竜巻などの激しい突風が発生しやすくなるほか、雷とともに“ひょう”が降ることもあります。

農業に影響するこの時期の気象と天候

現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより気圧の傾きが大きくなる	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 強風注意報、暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	上空に寒気が入り、大気の状態が不安定	安全な場所へ避難 農作物の管理	気象情報、雷注意報、 竜巻注意情報、 ナキヤスト（雨雲の動き・雷・竜巻）
高温	暖気の流入や日照	農作物の管理 健康管理	天気予報、熱中症警戒アラート 各現象に対する天候情報、 2週間気温予報、早期天候情報、 週間天気予報、季節予報
少雨 長雨（多雨） 日照不足 長期の低温 長期の高温	平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間またはそれ以上に長く続く		

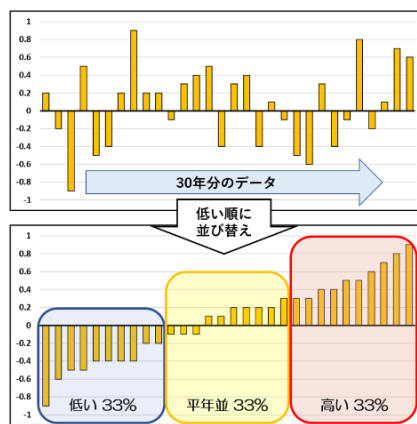
【気象用語】「季節予報の3つの階級」とは

季節予報では、1か月間や3か月間の平均的な天候（気温や降水量など）が平年よりも低く（少なく）なるのか、平年並となるのか、平年よりも高く（多く）なるのかを予報します。

この「低い（少ない）」、「平年並」、「高い（多い）」といった3つの階級は、1991年～2020年の30年間の値のうち、11番目から20番目までの範囲を「平年並」として、それより低ければ「低い」、高ければ「高い」と定めています。このように3つの階級を定めることで、過去30年間の値では3つの階級それぞれの出現回数が10回ずつとなり、出現率が等分（33%ずつ）となります。これを気候的出現率といいます。

例えば向こう1か月間の平均気温を予想するとして、もし予測資料が何もないと、「低い」となる確率、「平年並」となる確率、「高い」となる確率はすべて等しい（気候的出現率）と予想することになり、各階級の予報確率は33%、33%、33%となります。

右の図に、平均気温を例に「平年並」の範囲の決め方を模式的に示します。「平年並」の範囲は地方や予報対象期間ごとに異なり、また、10年ごとに値が更新されていきます。次回は2031年になると2001年～2030年の値に更新されます。



- ①気温平年差を低い順に並び替える
- ②低い方の10年の範囲を「低い」真ん中の10年の範囲を「平年並」高い方の10年の範囲を「高い」とする

「平年並」って、30年間に起こった現象の中で真ん中の10年の範囲のことだったんだ！



この例では「平年並」の範囲は-0.1℃～+0.3℃